

子ども国会で紡いだきずな

富岡小学校6年 山本千尋さん（富岡町）

参議院創立50周年を記念して平成9年に第1回目が開催された「子ども国会」が、平成24年7月29日、30日の2日間、12年ぶりに開催されることになりました。

今回の「子ども国会」は、子ども議院（小学5・6年生の中から全国で150人）に選ばれた私たちが、東日本大震災からの復興のために、知恵を出し合って未来をどうつくっていくかを話し合うための場として開催されたものです。

テーマ別に設けられた委員会で意見を交わし、本会議において「子ども国会宣言」という1つの提言を共同で作りに上げていきました。

そして、その提言をこれからの参議院の活動に生かしていくため、国会議員をはじめとして内閣総理大臣にも知っていただくということでした。

私が「世界の人たちとのきずな 第2委員会」の委員長として、提言案をまとめてみると、私と同世代の子どもたちの心の中には、外国が支援してくれたいことへの恩返しへの気持ちがあつて、日本人はやっぱり「礼儀正しく、思いやり深い、誇れる民族だ。」とあらためて感じました。

また、これからの日本は外国との密な交流が絶対的に必要だと委員全員が感じていることも分かりました。

私たちは、まだ子どもだから世界の人たちへ向けて実行できる（技術支援・救出活動など）ことは少ないかもしれないですが、子どもにもできる範囲のこと（ボランティアやペットボトルのキャップ収集など）は実践していくことが大切だと気付かされました。

翌日、活発な意見交換でまとめた提言を「本会議」で発表しました。思ったより落ち着いた言えよかったです。野田総理大臣は、私たちのまとめた「子ども国会宣言」をこれからの国の仕事に活用していくとおっしゃいました。本当に実行してほしいと思っております。また、総理は、私たちにこれからの日本を支えてほしいと願いをたくし、世界の中の日本の立場をより良いものとするために、「世界を舞台に人類全体に貢献するという志を持ってほしい」と伝えられたのです。

私は、「良いことをおっしゃるなあ」と思っていました。小林議長が閉会を宣言した瞬間、大きな長い拍手が起こり、とても長かったような短かったような「子ども国会」

が終わりました。子ども議員全員から「ふーっ」と力が抜けたような感じがし、達成感がジワッと押し寄せてくるような気がしました。



第2委員会の委員長として発言する様子。



委員会では「世界の人たちとのきずな」について話し合った。

私は、とても熱気があり、充実した2日間の出来事を、一生忘れることはないでしょう。子どもでも真剣に考え、議論し、提言をまとめあげたことはすごいことだと思っております。協力してくれた子ども議員のみんなにも、とても感謝しています。

全国各地に知り合いができたことをうれしく思うとともに、このきずなをより強く結んでいくことを心がけようと思っております。



参議院本会議場に登壇して発言する様子。